

# 北海道福祉大学校

## 和顔愛語

かなしみはちからに、欲りはいつくしみ、いかりは智慧にみちびかるべし。  
 (富沢賢治)

悲しみは力に、欲望は悲しみに、怒りは知恵へと変わっていく。ネガティブな感情をポジティブなものに変えていこう。心持ち一つで生きる姿勢もかわっていく。

## 福祉保育学科 クリスマスコンサート



### クリスマス・コンサート

#### 2年生の取り組みから

福祉保育学科 学科長 秋川 浩

会場はシーンと静まり返り、さくら保育園の子どもたちは目を輝かせて待ち構えています。実行委員の学生の合図で開演です。半年近くをかけ、途中で何度も投げ出してしまいうそになりながらも助け合い、励ましあつてこの日を迎えました。

Operaは「小さいオペラ」を意味します。対話と歌と踊りによって物語が展開する音楽劇です。2年生は「孫悟空」の物語を園児を巻き込んだ迫真の演技で、また、時にはコミカルに演じ、大きな拍手の中で幕を閉じました。

保育士は音楽、美術、遊び等々について多様な高い知識や技能が求められます。このため、日頃から実験を通してスキルアップを図っています。その集大成の一つがクリスマス・コンサートの発表で進行、演出、衣装等のすべてを自分たちで創りあげます。

今回は理事長はじめ沢山の方々においていただきました。ありがとうございました。未熟な点は否めないのですが学生の顔は満足でした。取り組みの体験とやり遂げた達成感、将来の職場で大きな力となることと確信しています。

### クリスマスコンサートを振り返り

実行委員長

福祉保育学科 2年 田南部 沙織

私たち2年生は西遊記を原作にしたオペレッタを発表しました。先生方の指導のもと、キャスト、音楽、衣装、メイク、美術、小道具、照明など全て学生が担当しました。

舞台上で演技するということは難しく、声の出し方や感情を表現する仕事など、何度も稽古を重ねました。また、衣装や小道具な



ども妥協せず、丁寧に作らなければならないということも学びました。稽古を重ねるたび、クラスが一丸となり、全員で成功させたいという気持ち芽生え、本番の日が近づくとつれ、気持ちが高揚していきました。

当日は皆さんに喜んでもらいたく、今までの成果を出し切れるように真剣に、そして自分たちも楽しんで演じました。園児たちの笑い声やお客様の拍手に感動し、胸が一杯になり、かけがえのない思い出となりました。1年間頑張ってきた、本当に良かったと思います。

この経験を卒業後に生かし、子どもたちにオペレッタの良さを伝えていきたいと思えます。



### クリスマスコンサートを終えて

福祉保育学科 1年 小野 綾子

11月から準備が始まったクリスマスコンサートも終了となりました。案内状作りでは、サンタさんとトナカイの顔のパーツを細かく画用紙で作り、チラシ作りでは描き方を工夫したり、各担当が1人1人頑張っていました。また、会場の飾り付けでは、1年生の実行委員全員で協力して取り組むことができました。この体験を通して、仲間との協力の大切さ、観客の皆様にも喜んでもらうための表現を学ぶことができました。

1年生のトーンチャイムの発表練習、本番の中でも、皆と呼吸を合わせることに難しさ、完成したときの喜びを味わうことができた。また、2年生の素晴らしいオペレッタの表現方法、演出方法はとても勉強になりました。

私も2年生になつたときに、

観客の皆様、子ども達が喜んでくれるような表現ができるように頑張りたいと思います。

ご指導してくださった菜原先生、橋本先生、そして先輩の方々、ありがとうございました。



吉田学園

さくら保育園

副園長

吉田 久美子



だき、心から感謝申し上げます。

子どもたちは「どんな楽しい事があるんだろう」「サンタさんがくるのかな」とこの日が来るのを心待ちにしておりました。最初にサンタさんが出てきた時の子どもたちの笑顔と歓声がどれ程楽しみにしていたかを表していたかと思えます。

歌や踊り、楽器の演奏、腹話術、そしてゴクウのオペレッタと、子どもたちの喜ぶものばかりで、素晴らしいものでした。きつとたくさん時間をかけて、力を合わせて作り上げてくれたのだと思います。

子どもたちは、身のりだしながら問いかけに答えていたり、笑い転げたりしながら楽しんでいました。きつと素敵なクリスマスの思い出になった事でしょう。

学生たちの頑張りをみて、きつと素敵な保育士になつてくれると信じております。今回はこのような素晴らしい機会に、子どもたちと一緒に参加させていただき、ありがとうございました。



# 実習を終えて

## 介護・社会福祉学科

副学科長 小岩 博子

今年度より教科書も一新し、新カリキュラムで勉強した学生が介護実習に臨みました。1年次の実習では、利用者の生活の場・日常生活の理解、利用者・職員とのコミュニケーションを実践し、人間関係の構築を図ることを目的としています。

多くの学生は介護技術やコミュニケーション方法などに苦慮しながらも、実際に高齢者の生活の場に向いて直接関わりを持たせていただく中で、多くの事を学んで一回り大きくなって戻ってきました。

しかしながら、今回の実習を通して学生自身の生活が他者に依存しており、更には、そのことを気にしていない状況があると感じましたし、実習指導者の方からの指摘もありました。自分自身の自立(自律)ができていない状況で、日常生活の自立支援を必要としている方に援助を行うことは非常に困難です。学校においても、もちろん機会あることに指導を行っています。家庭あるいは地域社会等それぞれの場面で関わる方々と一緒に育てていくという意識が重要であると改めて感じています。



介護福祉学科 1年 井上 舞

今回がはじめての実習だったため、実習が始まる前から、利用者の方としっかりコミュニケーションが図れるだろうか、笑顔で話せるだろうか、との不安があり、実際に実習が始まってみると、頭が真っ白になり利用者の方とどのように接すればよいかわからず、先生や友人に弱音を吐いたこともありました。

私が実習を行った施設では、2週目から入浴介助、食事介助、排泄介助等を行わせていただきました。安全性を考えながら、利用者一人一人に合った介助を行う事は本当に難しいと感じましたが、学校で学んだ介護技術や施設で学んだ技術をゆつくりでも確実に行えるように心がけ、声かけも忘れず介助を行いました。そんな中、まだまだ未熟な学生にもかかわらず、「ありがとう」と利用者の方に言われた一言がとてもうれしく感じました。



また、認知症の利用者の方とのコミュニケーションも初めてで最初は何を話していいかわかりませんでした。日々会話を重ねていくと何を伝えたいのか、何をしたいのかを理解する事が出来るようになり、その方に合ったコミュニケーションを図れるようになりました。実習終了前の5週目には、実習生2人でレクリエーションとして「ふるさと」を演奏した際、利用者の方の中に涙を流してくださった方がいたことが印象強く残っ

ています。今回の実習を通して、学校とは異なった学びを経験させていただく事が出来、自分が介護福祉士になるための、足りない部分に気づくことができた実習だと感じました。

## 精神保健福祉学科

1年 長谷川 彩子



約1ヶ月の病院での実習は大変りの多いものとなりました。

これまでは地域の施設に通う利用者さんとしてしか接する機会がなかったこともあって、病院の患者さんは「退院を望んでいる」と思っていました。実際には精神症状が重い患者さんが多く、高齢化から認知症や糖尿病などを併発するなど、退院には解決すべき多くの問題があることを知りました。実習の総括での支援計画でも、対象者の精神疾患、生活歴、治療歴など様々な背景があつて、それらを情報として整理することの難しさを本当に実感するとともに、患者さんが置かれている状況や抱えている気持ち、その地域の社会資源の現状などを学ぶことができました。

今回の実習では、この学科を卒業された先輩にご指導いただき、多くのアドバイスをいただきました。患者さんと関わる際には「受容と共感」の姿勢を大切に、医学モデルの視点だけではなく、生活モデルの視点を持って支援していくことが精神保健福祉士には求められているようです。また、地域の施設では利用者さんの社会復帰を支援するために多くの先輩が活躍されていて、とても心強く感じました。私も先輩方のように、患者さんや利用者さんのニーズに沿ってより良い生活を一緒に考え、支援ができる精神保健福祉士としてがんばりたい、という思いをより一層強くしました。

## 福祉保育学科

教員 西館 真澄

福祉保育学科における保育実習には、保育所実習と施設実習があり保育士資格を取得するための必修単位で本学科では2年次にを行っています。保育所や施設の中で子どもや利用者の方と共に生活し、これまでに習得した知識や技術を実践する場となります。子どもたちや利用者の方々と触れる中で愛情を持って理解し、応じられる実践的な能力を身につけることや保育者としての使命感を持つことを目的としています。学生は実習を通して物の見方や考え方を広げ、人間的資質の向上を目指しています。



2年 白幡 美帆

約1ヶ月に及ぶ保育園実習と、約2週間の施設実習では保育士として、また人として大切なことを学び様々な貴重な体験をさせていただきました。



保育園実習では、子どもと接する中で毎日が新鮮で、驚きや発見がたくさんあり、子どもとの遊びの中で共感する心や子どもと子どもの喧嘩の対応、一人ひとりの個性を大切にしてい守っていくことの大切さ等を学びました。保育園実習で学んだことは大変多く、何より私自身、子どもを愛する心が今までより強くなったことが、この実習で大きく培ったものだと思います。

施設実習は、知的障害児施設で行いました。ボランテア以外で障がいを抱えた子どもと接することが少なかったため、コミュニケーションを図ることがとても難しく、何度もう惑いました。しかし、生活の援助と一緒に遊んで関わることでその子が何を伝えようとしているのかが少しずつ理解できるようになりました。障がいというものにとらわれ過ぎていた自分に気がつき、少しでも理解していくことによってコミュニケーションを図って心を通わすことができた頃に実習は終了となりました。心の面でも成長できたのではないかと思います。

保育園実習、施設実習を通して、保育士は人の命を預かる責任のある仕事であると共に子どもの人間形成に大きな影響を及ぼす立場であるということ実践の場を通して再確認することができました。今後はこの実習で学んだことをはじめとし、子どもたち一人ひとりの思いを大切に、安全に過ごせる環境を心がけ、人間関係を築き上げることのできる保育士を目指し努力していきたいと思えます。

### 今後の学科スケジュール

【介護・社会福祉学科】	
冬休み	12月24日~1月14日
定期試験	2月5日~26日の期間で実施
介護福祉士共通試験	2月17日(卒業学年)
【福祉保育学科】	
冬休み	12月24日~1月15日
定期試験	2月10日~15日の期間で実施
2年生を送る会	2月26日
【精神保健福祉学科】	
冬休み	12月28日~1月8日(昼間課程)
	12月28日~1月5日(夜間課程)
精神保健福祉士国家試験	1月30・31日
【共通】	
卒業式	3月10日(札幌市民ホール)

### 編集後記

清水寺で毎年発表する恒例行事、「今年の漢字」は「新」が選ばれました。政権交代で新内閣が発足し、裁判員制度もスタート。また、米大リーグ、マリナーズのイチロー選手の新記録や新型インフルエンザの流行で新薬登場など、さまざまな「新しいこと」に期待し、希望を抱きました。

北海道福祉大学校で振り返ると、介護・社会福祉学科及び精神保健福祉学科において、新カリキュラムへの移行、福祉保育学科では、幼稚園教諭の取得や新保育園の開園準備など、新たな取り組みを実施し、新社会人の育成に向けた教育を展開した1年でした。(定)

発行元 専門学校北海道福祉大学校 広報委員会  
札幌市中央区南3条西1丁目15番地  
011-272-6085  
<http://www.yoshida-fukushi.jp>